

T. 13  
0820

264

法務局

青島西機機第一

人事局

軍務局

八月二十三日

供

送

司令長官

參謀

首席參謀

副官

官

八二九、軍務

三驅機密第六一號ノ四二

昭和十

年

八月三日

宿毛湾

第二十三驅逐隊司令

殿

件

進達

八月五日

經

出

送

附

送

大

隊

司

令

殿

件

進達

八月五日

三

日

月

觸

衝

事

件

報

告

一

通

第

七

十

八

條

依

ル

分

局

員

局

員

局

局

員

局

員

局

員

局

員

本

海軍

驅逐艦三日月夕月觸衝事件報告

第二十三驅逐隊司令海軍中佐清水他喜雄

一 經過概要

當隊船艇十平八月十三日一二。第一水雷戰隊二番隊トシテ佐伯出  
港豊後水道方面ニ於テ戰隊各種訓練ニ參加シ同日ニ二五五項對  
名取離米敷ヲ教練ヲ終了シ引續キ旗信ニ依リ照射教練隊形  
ヲ制形中二三一一沖島灯台ノニ六度一ニ六里ニ於テ二番艦三日  
月、四番艦夕月ノ一番聯管右舷側ト觸衝セリ

當時天候 晴 風向 北西、風力 1 米、波浪 二

視界約六千米 局員

ニ各艦ノ事件顛末書(經過概要)

一) 一番艦菊月經過概要

二) 二番艦三日月觸衝顛末書

別紙通

- (三) 三番艦望月経過概要  
 (四) 四番艦夕月觸衝顛末書

三所 見

右觸衝ノ原因ヲ按スルニ

- (一) 個人トシテモ個艦トシテモ又編隊トシテモ練度極メテ低キ當隊ノ現狀ニ於テ叢不數千教練終ラ後一小隊トニ小隊ト一時距離甚ダシク延伸シタル状態ヨリ隊ヲ充分纏ルコトナク照射教練ノ對執制形ニ專念シ引續キ二回ノ反轉運動ヲ實施シタルハ司令トシテ隊ノ誘導宜シキヲ得ズ
- 後續驅逐艦長ヲシテ機宜ノ處置ヲ執ルニ困難ナラシメ本事件ヲ惹起セシムル原因ヲ作為シタルモノナリト認ム
- (二) ニ三。七頃夕月ガ望月ノ左側ニ進出セシヲ認メタル際隊内電話ヲ以テ夕月ニ「面舵ヲトレット命令ヲ與ヘタルノミテ電話ノ速達ヲ

過信ニ費消時ニ對スル考慮少ク左回頭ヲ續行シタル夕月ノ行動ト相俟テ本衝ノ一因ナリト認ム

別圖(三日月夕月觸衝前後ニ於ケル各艦運動圖)參照

(終)

△

一番艦菊

菊又土過三既隊司令

海軍中佐

清水他吉雄

菊月 驅逐艦長 海軍少佐 七字 恒雄

十三日二五一艘撃撃教練終了スルト共ニ航海灯ヲ點出シ引續キ照射教練、對勢制形ノ目的ヲ以テ三五。度ニ度針第一戰速(三十二節)儘直進シ各艦、發射終了ヲ待チ三二五九強速(十八節)トナシ次デ速カ灯ヲ點出シ三三。ニ原速(十二節)トナセリ當時ニ番艦三日ハ概ネ常距離ニ續行シニ小隊ハ後方大約三ノ米附近ニ續行シアルヲ認ム

二三。頃照射教練、對勢上基準艦名取ニ對シ約四。度北方ニ上リ過ギアリタルヲ以テ方位後落ノ目的、爲面舵(十五度)ニテ一六。度度針セリ、二三。四頃定針間モナク再ビ反轉セバ基準艦名取ニ對シ略適切ナル位置ニト口位シ得ベント認メタリ

3

此ノ時ニ小隊ハ<sup>右</sup>舷前方ニ概テ並行反航針路ニ航進中ナルヲ以テ  
面舵反轉ハ運動無理ナリト判定シ取舵反轉ヲ決意セリ

二三。六頃ニ番艦三日月及三番艦望月ハ列中ニ在リ四番艦夕月列  
ニ入ラントスル位置ニアルヲ認メ取舵(十五度)ニ轉舵セリ

回頭中間モナク夕月ハ望月ノ左舷後方ニ偏位シ入列ノ模様ナキ依リ

直ニ入列セシムル爲メ同艦ニ對シ隊内電話面舵ヲトシテ下令シ其儘

回頭ヲ續ケタリ

爾後夕月ノ左舷ヲ燈ヲ認メツツアリシガ夕月次第ニ隊列ノ左側方ニ進出

シ二三番艦ノ乗針中ノ曲列中ニ突入シ來ル如キ模様ヲ認メ夕月ヲ

以テ直ニ同艦ヲ停止セシムル必要アリト感シ二三。八頃夕月ニ對シ電話ヲ

後進原速ヲカケテ下令セリ

尚次第ニ近接シ三日月夕月共ニ後進全速急速停止ノ處置ヲ執リ夕月

終ニ二三。一頃三日月夕月觸衝スルニ至リ

## 驅逐艦 三日月夕月觸衝顛末書

三日月驅逐艦長海軍少佐 金岡國三

## 一 經過概要

驅逐艦 三日月、昭和十一年八月十三日正午第三水雷戰隊二番隊二番艦トシテ豊後水道ニ出勤各種訓練作業ニ参加シ同日午後十時五十分頃龍襲撃教練ヲ終了シ本隊司令嚮導シ次テ行ルベキ照射教練準備隊形制中ニ番隊四番艦夕月ト左記經過ニ依リ觸衝シ兩艦共損傷ヲ被ルニ至リ(別圖參照)

一 別圖運動中三日月ハB点附近ニ於テ一時距離三五〇米内外ナリシトD点ニ於テ面舵一杯後進原速下令以後距離不規トナリシ外ハ原速ヲ(十二秒即)ニテ概ネ常距離(三〇〇米)ニテ一番艦菊月ニ續航中ナリキ

(二) 觸衝相手艦タル夕月發見ヨリ觸衝迄、經過概況

(4) 南一五度東ノ針路ヲ菊月ニ續航中 A 莫附近ニテ右約  
 四。度ニ。米附近ヲ針路概北ニテ望月ニ續航中(兩艦  
 ノ距離常距離ヨリ相當大)夕月ヲ發見ス次テ B 莫附  
 近ニテ距離四。米内外ヲ以テ入列續航中ノ望月ノ左舷約  
 一。米餘偏シ殆ト並列ニテ進航中ノ夕月ヲ認メタルモ特ニ  
 保安上ノ顧慮ヲ要スルモノト感セザリキ  
 (4) C 莫附近ニ於テ左一五度五五。米内外ニ夕月ノ青灯ヲ認メ  
 タルモ保安上ノ不安ナキモノト考ヘ舵角概北一五度乃至二  
 五度ヲ以テ菊月へ續航ニ專念中 D 莫附近ニ至リ急ニ夕  
 月ハ面舵ヲ取リタル爲リ我左四五度四。米ノ莫ニテ本  
 艦ノ前方ニ向ケ概北我首尾線ニ直角方向( E 進行中  
 ナルヲ認メ危險全ク迫レルヲ直感シ面舵一杯後進原速  
 續テ後進一杯ヲ命ス然ルニ當時舵角ニ。度ニテ取舵轉



二、觸衝ノ

船中ニシテ左回頭情ヲ極メテ大ナリシ爲面舵ニ利キ方甚ダ遅  
 レタルモ一兩舷機ハ機関長ノ應急處置ノ適切ニ依リ安ホ外  
 速ニ後進ニ回轉ヲ始メタルモ時既ニ遅ク存速約一節ニテ本  
 艦首ヲ以テ交角三〇度ニテ夕月一番聯管右側ニ觸衝セリ  
 觸衝直後兩艦略平行トナリ本艦々尾稍開キタル状態心ヲ  
 以テ本艦ハ速ニ後進ノ行步加ハリ十一時十二分頃全ク兩  
 艦離レタリ

山 時刻 昭和十一年八月十三日 午後十一時十二分頃

四 場所 豊後水道沖島灯台ノ三九〇度 二五〇度 理

ハ 對手艦名 驅逐艦 夕月

ニ 同右艦長 海軍少佐 由川周吉

三、觸衝前後ニ於ケル

1) 風向風力

北西 0.1 米



2) 天候

曇半晴

3) 海上模様

和南及東ノ長濤アリ

4) 潮流方向

南ノ節(推定)

5) 他四圍状況

薄キ濛氣アリ視界六〇〇米

日本艦、發程地目的地針路速力燈光機関操舵狀況等

6) 發程地

佐伯

7) 目的地

臼杵

8) 針路

(觸衝時)北三十度東(不正確)

9) 存速

約一節

燈光警戒管制中值三兩舷灯速力灯及艦尾信号

灯ヲ出シアリ

10) 機関狀況

良好、兩舷機後進全速

(1) 操舵状況  
(2) 觸衝前艦状況

良好 面舵三五度

襲撃教練ヲ終ニ合戦準備ヲ復旧シ照射関  
係員ハソノ準備中

五、始メテ對手艦ヲ發見シタル時刻方位距離及燈光ノ状況

(1) 始メテ對手艦ヲ見タル時刻午後十時二分頃

(2) 方位距離 南五度西二〇〇米

(3) 灯光 右舷灯

六、對手艦ノ推測針路速力灯光信號運用ノ状況其他衝突時於

ケル對手艦船ノ状況

(1) 對手艦ノ艦首方位 北六十度東

(2) 速力ニ節内外(推測)

(3) 灯光右舷々灯及速力灯(後進全速)

(4) 觸衝前ニ於ケル對手艦ノ状況(一項ニ記載ノ通)

6

七、觸衝ヲ避クル爲我艦ニ於テ施シタル處置

午後十時九分頃夕月ヲ左四五度四〇。米ニ認メソノ對勢ヨリ見テ觸衝避ケ難キヲ直感シ觸衝ニ依ル損傷輕減或ハ萬一觸衝回避爲面舵一杯後進原速續テ後進一杯ヲ令ス後進全速ノ速カ灯ヲ揚ゲ

八、本艦ノ始メテ相觸レタル部分交角及其後ノ狀況

(イ) 彼我艦ノ始メテ觸レタ部分三日月船ト夕月一番聯管右側

(ロ) 交角 三〇度

(ハ) 其ノ後ノ狀況、船觸衝後間モナク兩艦ハ平行トナリ本艦後進ノ行歩ハ漸次但ハリ觸衝後一分内外ニテ兩艦全ク分離ス本艦後退ノ際夕月右舷推進器(回轉中)ト本艦左舷ニルヂキール相觸レ兩者損傷救助艇ニ備ヘタル本艦第ニカッタート夕月三四番砲台ブラツケットニ觸衝シ同カッター

及ダビット大破

ル觸衝後施シタル處置

(一) 防水續テ防水蓆及押離用凹材ノ準備ヲ命ス

但シ防水蓆及凹材共ニ使用セズ

(二) 損傷箇所調査ヲ行ヒ五番ビームヨリ後ニハ全然浸水ナ

キヲ確認シ上笠一糧食庫内格納品ヲ取出シ補強ヲ行ヒ

豫備清水タンクニ浸水ノ有無ヲ檢ス

(三) 補強工事略完成上觸衝地莫發・佐伯・錨地ニ回航

一〇 損傷状況(別圖参照)

(一) 船体之部

(一) 艦首部損傷

第五番ビームヨリ前方船艙甲板防水區劃部破損

(二) ビルヂキール変形屈曲

左舷第七十一至七十九番ビーム間部約四米変形屈曲

ハ 外板変形

艙 甲板左舷第三十四至三十八番ビーム間外板約一米変形

二 職装用品部

ハ 第三ニカッター破損

同右附屬具流失撻八本爪竿二本 水樽一個撻架

六個 舵及舵柄各一防舷物六個破損 繫止帶二本

四 第三ニカッターダビット 毀損並同短艇索用滑車三個

破損

ハ 手摺屈曲変形

第三ニカッターダビット附近約六米変形

三 第三ニカッター搭載要具流失

ハ 兵器部

短艇羅鍼儀  
短艇兵器筐

四) 備品、部

艇具囊

艇用木具囊

二) 所見

本觸衝ノ原因ヲ考フルニ小官前續艦續航ニ專念シ爲ニ僚艦ニ對シ注意ヲ拂フ餘裕少ク僚艦ノ運動ニ對スル豫測不充分ノ爲應急觸衝回避ノ時機ヲ失セルハ本觸衝ノ一原因ニシテ驅逐艦長トシテ衷心慚愧ニ堪ヘサル所ニシテ觸衝損傷ニ至ラシメタル責極メテ大ナルヲ痛感スルモナリ

備考

一) 當直記録等ノ記事ハ一般ニ分單位ニテ切捨テアリ且事件後

行動図等ヨリ推算セルモノアリ

本報告ノ時分ニハ若干ノ誤差アルヲ免レズ

(一) 航海長ハ當直將校ナリシモ艦長自ラ操艦中ニテ本件報告

ニ 航海長及當直將校ノ本件ニ関スル顛末明細書ハ其ノ必

無之モト認ムルニ付特ニ之ヲ附セズ

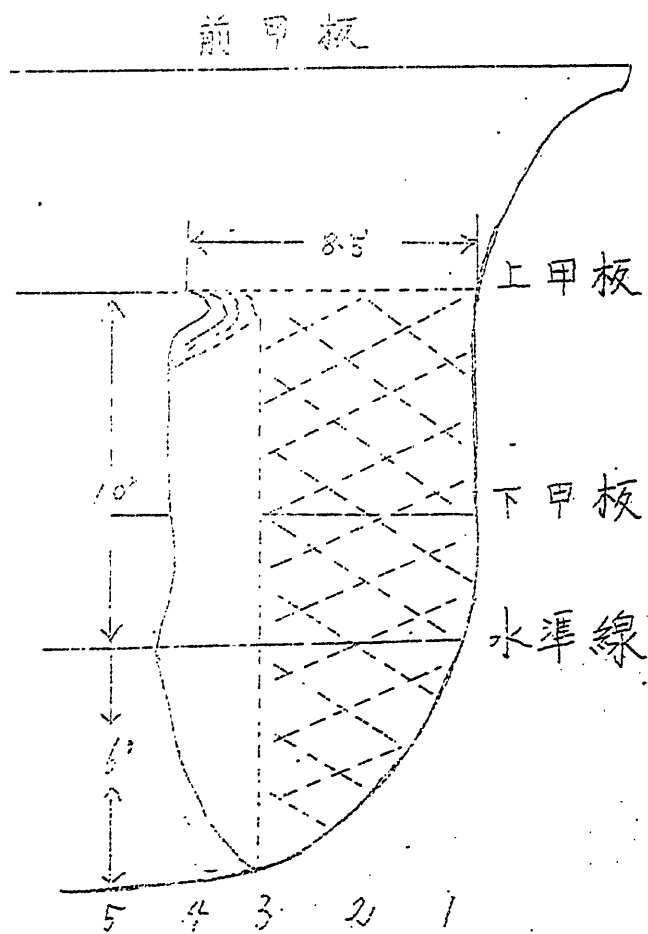
(二) 記載各距離ハ前續艦ト距離外總テ目測ナリ

終



驅逐艦三日月觸衝個所概略圖

(昭和十一年八月十三日)

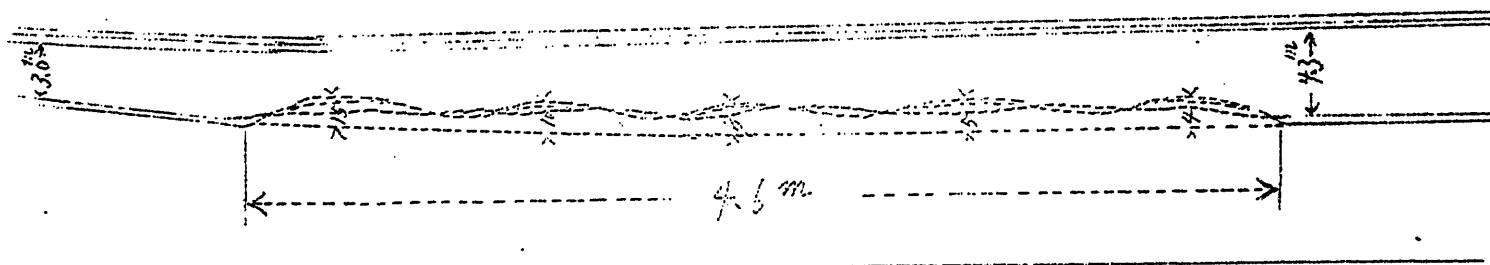
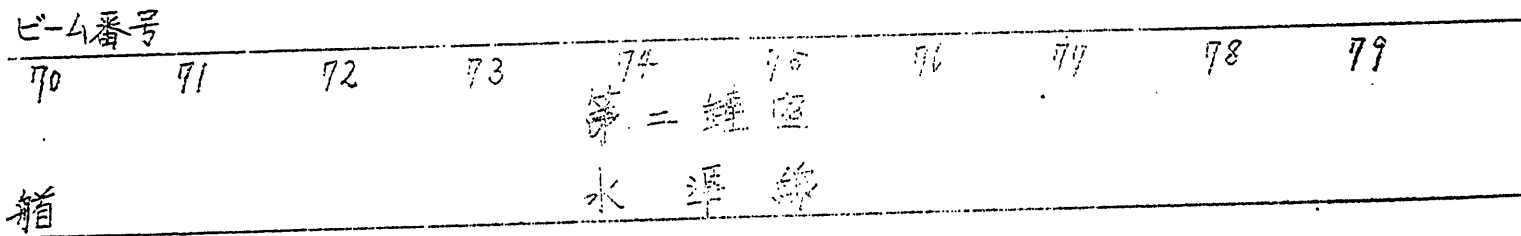


0746

驅逐艦三日月左舷ビルヂール欠損圖

側面

上甲板



0747

## 三番艦望月經過概要

望月驅逐艦長海軍少佐成富武光

八月十三日二二五〇頃司令驅逐艦菊月ハ發射運動ニ移リ前  
 續艦三日月亦之ニ續行スルヲ見タルモ目標艦名取ヲ觀測  
 シタル方位約三十度距離約四千米ト判断セルヲ以テ其ノ  
 儘名取ニ近迫ニ二五五頃即菊月ト約四分ノ時隔ヲ以テ發  
 射ヲ終了直ニ轉舵一小隊ニ向首セリ此ノ時夕月ヲ見タ  
 ルニ距離約七百米アリタリ

其ノ際一小隊ノ艦尾警戒燈(一戰速)ハ二艦殆んど一線ニ重  
 ナリテ見エ目測距離約三千米、尙本艦速力一戰速(三十二  
 節)ナリニ二五八<sup>四</sup>菊月ヨリ戰鬪速力ヲ使用セズ、電話  
 ヲ受ケタルモ距離尙大ナリシヲ以テ<sup>五</sup>暫ラ<sup>六</sup>此ノ俟ニ行ク<sup>七</sup>ヲ

月ニ信號セリ

二二五九頃測距千九百米ヲ得タルヲ以テ直ニ兩舷前進  
 強速續イテ原速トナシタリ 其ノ後一小隊ハ右ニ殆ド九十  
 度變針セリト觀測セルヲ以テ二番艦三日月ノ艦尾ニ向首  
 スル如ク操艦セルモ近ヅクニ從ヒ殆ド反航ノ狀況トナリ居  
 ルヲ見タルヲ以テ右約六十度九百米ニ三日月ヲ見タル時舵  
 角十五度乃至二十五度ヲ以テ入列ヲ始メタルモ廻リ過ギ  
 傾向アルヲ見一應舵ヲ戻シ兩舷十五度ノ舵角ニテ二三〇六頃  
 三日月ノ稍左後方概ネ常距離ニ入列ヲ終リタリ  
 此ノ時後續艦夕月ヲ見タルニ右約百四十度約五百米  
 ニテ一兩舷燈ヲ見タリト記憶ス施同中ナルヲ見容易ニ入  
 列可能ト判断シ其ノ後ハ前續艦ニ常距離ニテ續行セリ  
 其ノ後左ニ變針トナリ二番艦ニ約常距離ニテ續行中

約七十度回頭セリト思ヒ頃左九十度三百米(二百五十米  
 ?)附近ニ速力燈停止ノ夕月ヲ見テ知ニド並航ニテ左  
 回頭中ト判断サレ舷燈ハ見エガリン様記憶ス  
 其ノ後夕月ト三日月ノ近接スルヲ認メタルヲ以テ直ニ面舵一  
 杯ニテ列外ニ出ツ  
 夕月先ヅ後進ヲカケ續イテ三日月後進トナルヲ見タル  
 毛間モ無ク觸衝ノ音響ヲ聞ク本艦ハ安全ナル位置ニ  
 後進原速ニテ行進ヲ停メタリ

(終)

## 驅逐艦三日月夕月觸衝顛末書

夕月驅逐艦長海軍少佐由川周吉

## 一 經過概要

驅逐艦夕月八第三十三驅逐隊、第四番艦トシテ八月十三日午後十時五十五分第三水雷戰隊夜間襲撃教練ニ參加襲撃終了後第一戰速針路三五。度艦距概不五〇。米ニテ前續艦望月ニ續航午後十一時。分前續艦望月、艦尾信號燈強速ヲ見テ強速ヲ令シ次イデ回頭艦尾信號燈原速ヲ見テ原速ヲ令シ前續艦望月反航對勢右回頭ニテ第一小隊ニ入列續航スルノ運動<sup>順</sup>應ニ午後十一時三分右回頭反轉セルモ前續艦望月、艦尾波及本艦舷側波ニ依リ前續艦トノ速力差猶極メテ大ナリト確認シ此儘前續艦望月、後尾ニ回頭入

列スルハ追突ノ虞アリト認メ左側ニ偏倚速力ノ減少  
 スルヲ待テ入列セントシ赤ニ次イデ赤四ヲ令シ左偏倚  
 約五〇米前續艦艦尾概ネ並頭ノ儘平行針路一六〇度  
 ヲ以テ航行セシ午後十一時七分頃左艦首方向ニ當面先  
 頭菊月取舵ニ變針シツツアルヲ感知シタルヲ以テ速ニ前續艦  
 望月ノ右側ニ出ズルヲ可トセシモ本艦情カ猶大ニシテ右側  
 進出困難ナリト判定シ直ニ取舵一杯ニ半速ニ次イデ微  
 速ヲ令セリ此ニ於テ艦ハ左回頭ヲナセルモ本艦々首ハ概  
 ネ先頭艦菊月ノ艦尾方向ニ向首シ西艦ノ關係方位毫  
 モ変化セズ且ツ西艦ノ距離意外ニ近接シ左回頭中菊月ニ對  
 シ衝突ノ危険アルヲ認メテ偶ニ午後十一時九分菊月ヨリ面  
 飛ヲトシ次イデ後進原速ヲカケテ受信シ直ニ舵戻セテ後進  
 原速ニ後進一杯ニ面飛ヲ令シ菊月ニ對スル危険防止ノ手段

ヲ請セリ之ニ於テ先頭菊月船一號レテハ安全ナルヲ確認シタルモ  
 菊月ニ概テ常距離ヲ以テ續航セル第二番艦三日月ニ對シ  
 危険大ナルモノアルヲ認メ面舵回頭情カノ生ズルニ先チ直チ  
 ニ取舵一杯ヲ令レタルモ時既ニ遅ク艦ハ猶前進情カニ依リ  
 前進レ三日月ハ右舷正横附近ニ近接シ來リ遂ニ午後  
 十一時十一分本艦三十九番ボーム附近ニ交角約三十度  
 存速約一節(前進情カ推定)ニシテ三日月艦首ト觸衝  
 スルニ至レリ

二、觸衝ノ時刻 昭和十一年八月十三日午後十一時十一分  
 觸衝ノ場所 豊後水道沖島燈台ノ二九四度九ノ一三六  
 對手艦名 驅逐艦三日月  
 同右艦長名 海軍少佐 金岡國三  
 三、觸衝前後ニ於ケル 風向風力 零 北西〇し一米



五. 相手艦状況

四. 觸衝時艦首方向  
我艦速度  
機関状況  
操舵状況  
其他勢艦状況

同 右 天  
同 右 海上模様  
同 右 潮流方向  
其他四圍状況

候 曇半晴  
和南南東ノ長濤アリ  
不詳

海上稍薄キ濛氣アリ視  
界約六〇〇米

北六十度東

約一節以下(前進情力存速推定)  
一罐機関状態良好操作適良  
良好

両艦々灯速力灯ヲ点出シアリ  
合戦準備ヲ復旧レ艦内解散シアリ  
灯火警戒管制トナレアリ

(1) 午後十時五十分襲撃ヲ終了シ前續艦望月ニ續航針路三五。度ニ定針セル頃(午後十時五十七分頃ト推定)艦首菊月及三日月、艦尾信號灯(急速)ヲ巨離約三〇〇米附近ニ認メ次デ午後十一時。分頃兩艦ノ右舷々灯ヲ視認ス

(2) 午後十時九分頃三日月ヲ右舷正横後一点附近(推定)ニ認ム距離約二五〇米推測針路概テ平行推測速力十ニ節燈光速力灯(原速)左舷々灯

六 衝突ヲ避クル爲メ我が艦ニ於テ施レル措置

午後十時九分先續艦菊月ニ對スル危険ヲ顧慮シ「取舵一杯ヨリ」舵戻セル「後進」原速ニ「後進」一杯ニ「面舵」ヲ令シクルモ三日月ト針路急激ニ交叉シ兩艦衝突ノ避ク可カラザルヲ直觀スルヤ面舵回頭情力ノ生ズルニ先テ直ニ取

舵一杯ヲ令レ西艦針路交角ヲ減少ニ努メテリ

七 彼我艦船始メテ

相觸レタル部介

本艦

右舷三十九番ヨリ附近

相手艦

艦首

觸衝交角

約三十度

其後ノ状況

觸衝後直ニ本艦両舷機停止ス前後

進情力ヲ殆ニト認メズ

三日ハ觸衝後約三秒後ヨリ

同艦艦橋附近左舷側ヲ以テ本艦右舷側ヲ擦過

後退ニ両艦離隔セリ

八 觸衝後施行レタル處置

(イ) 直ニ防水ヲ令レシテ船員ヲ防水部署ニ就カシメ防水

葦ヲ觸衝部ニ展張ス

(ロ) 人命ニ異状ナキヲ確ムルト共ニ損所ヲ調査シ士官室右

九. 損 害ノ 状 況

(一) 舷側及士官室甲板ノ補強應急作業ヲ行フ  
右舷機異状ノ有無ヲ調査シ自力航行ニ差支ナキヲ  
確ム

(二) 右舷自三九番至四〇番間水線下約一米ニ縦  
九〇〇耗横八七〇耗ノ破孔ヲ生シ三番重油タンクニ侵

水ス別紙第一參照  
右舷自三八番至四二番間上部構造物変  
形若シ損失ス

形若シ損失ス

(三) 一番副管楯上部右側手摺一部変形

(四) 右舷機銃甲板手摺一部変形ス

(五) 右舷後部材置場一部変形ス

(六) 右舷展開器用揚収装置ノ一部変形ス

(7) 右舷推進器各翼々端缺損ス(別圖第三参照)  
 可所見

右觸衝ノ原因ヲ按ズルニ

- (一) 入列運動中ノ前續艦トノ速力差大ナルヲ確認シツモ  
 速ニ速力低下セルナルノ決断並ニ處置ヲ缺キタルコト  
 (二) 回頭側ノ外側ニ偏倚速力減少ヲ待チテ入列セント企

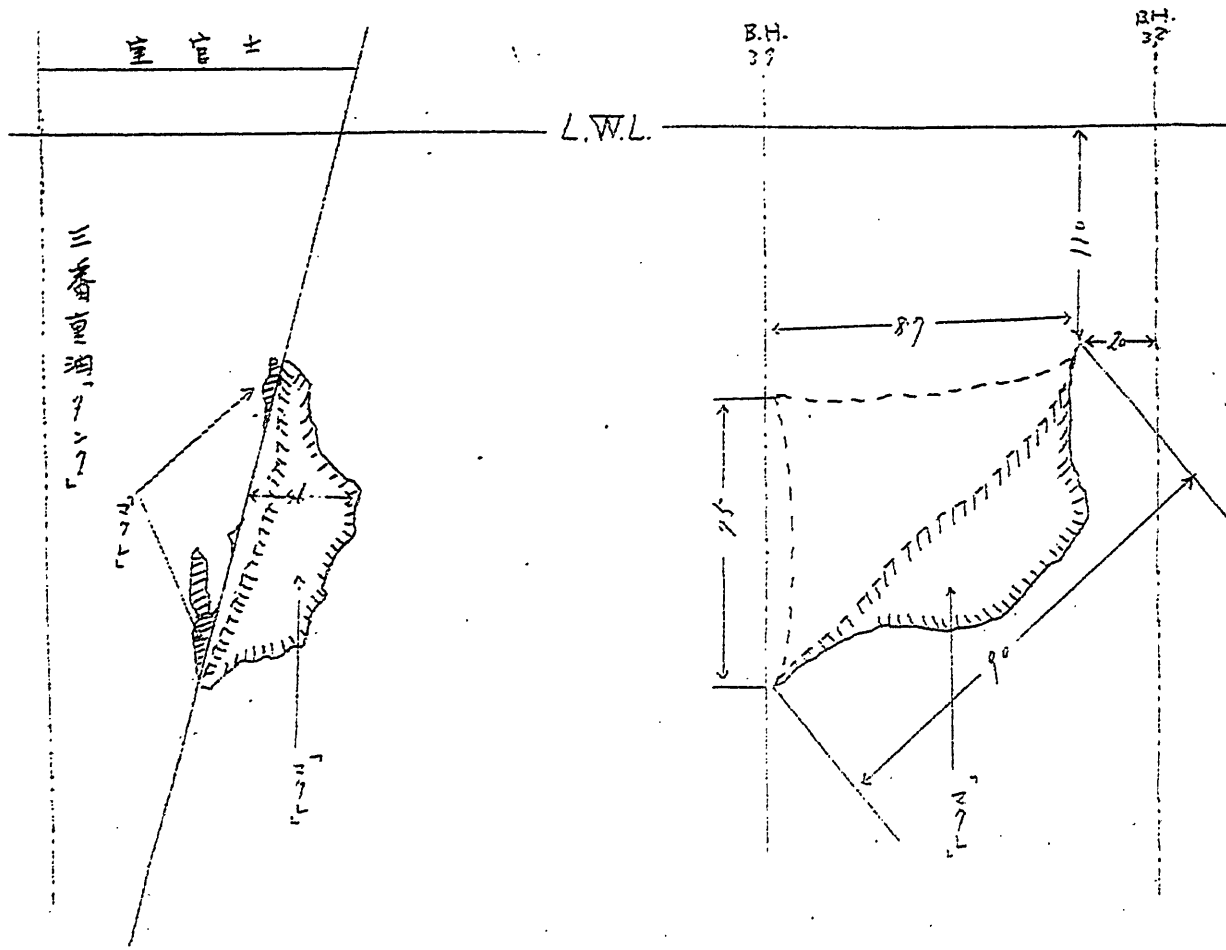
圖セルコト

- (三) 危険ヲ感知セル時速力ニ後進全速ヲ令スルノ處置ニ出ツモ  
 外方轉舵ニヨリ衝突ノ危険ヲ防止セントセルコト  
 等驅逐艦長トシテ保安上ノ顧慮ニ長レク處置極  
 メテ不徹底トナリタルハ衷心恐懼慚愧ニ堪エズ其責  
 其ヲ大ナルヲ痛感スル次第ナリ

記

側面圖

正面圖



別圖第一  
 駆逐艦夕月破孔見取圖(單位釐)  
 点線ハ破孔ヲ示ス

0759

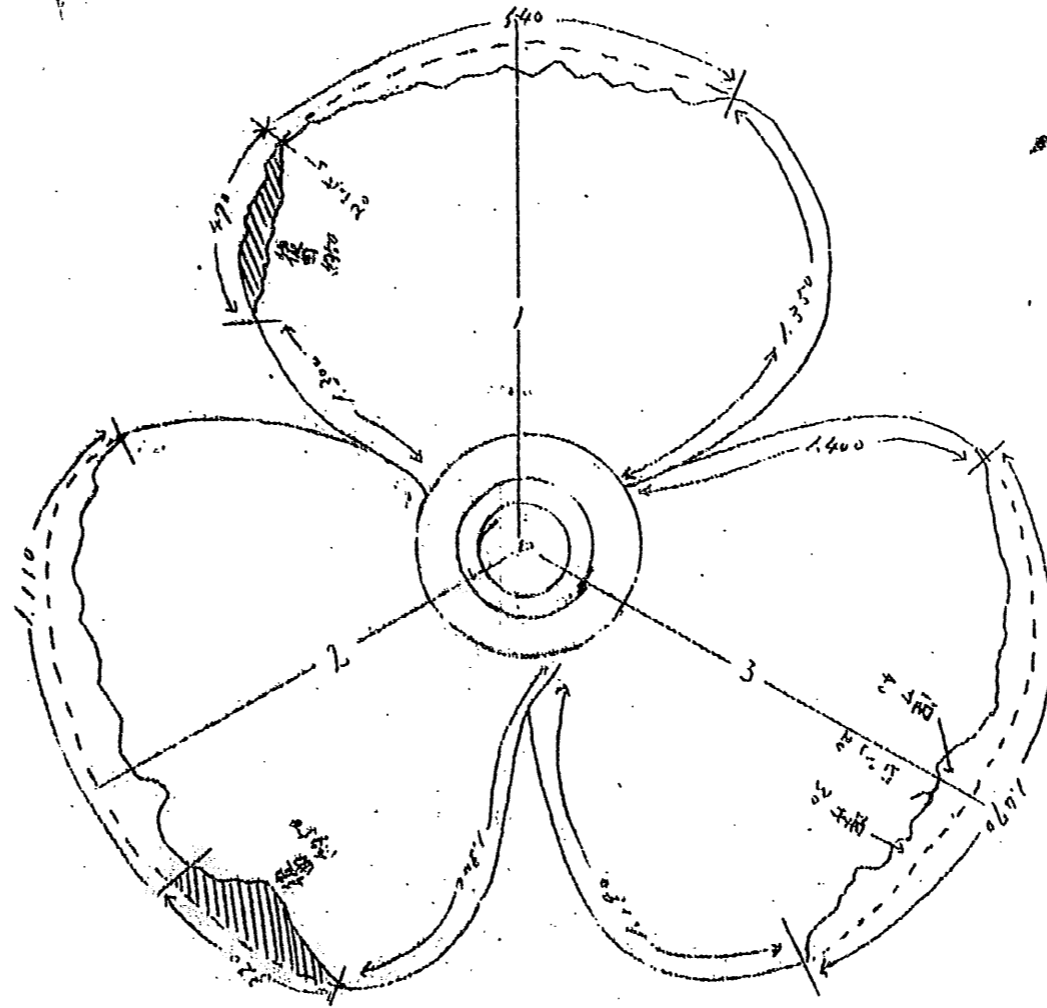
圖略分部損毀器進推舷右内又艦逐駆

ル鬼ヲ七向ニ船

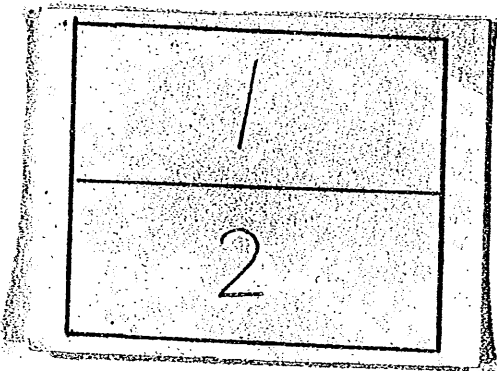
11-8-16

兼船ニ併受於 耗法寸

別圖第二



# 分割撮影ターゲット

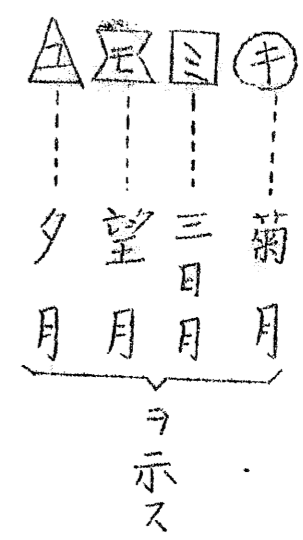
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	



0761  
0762

別圖

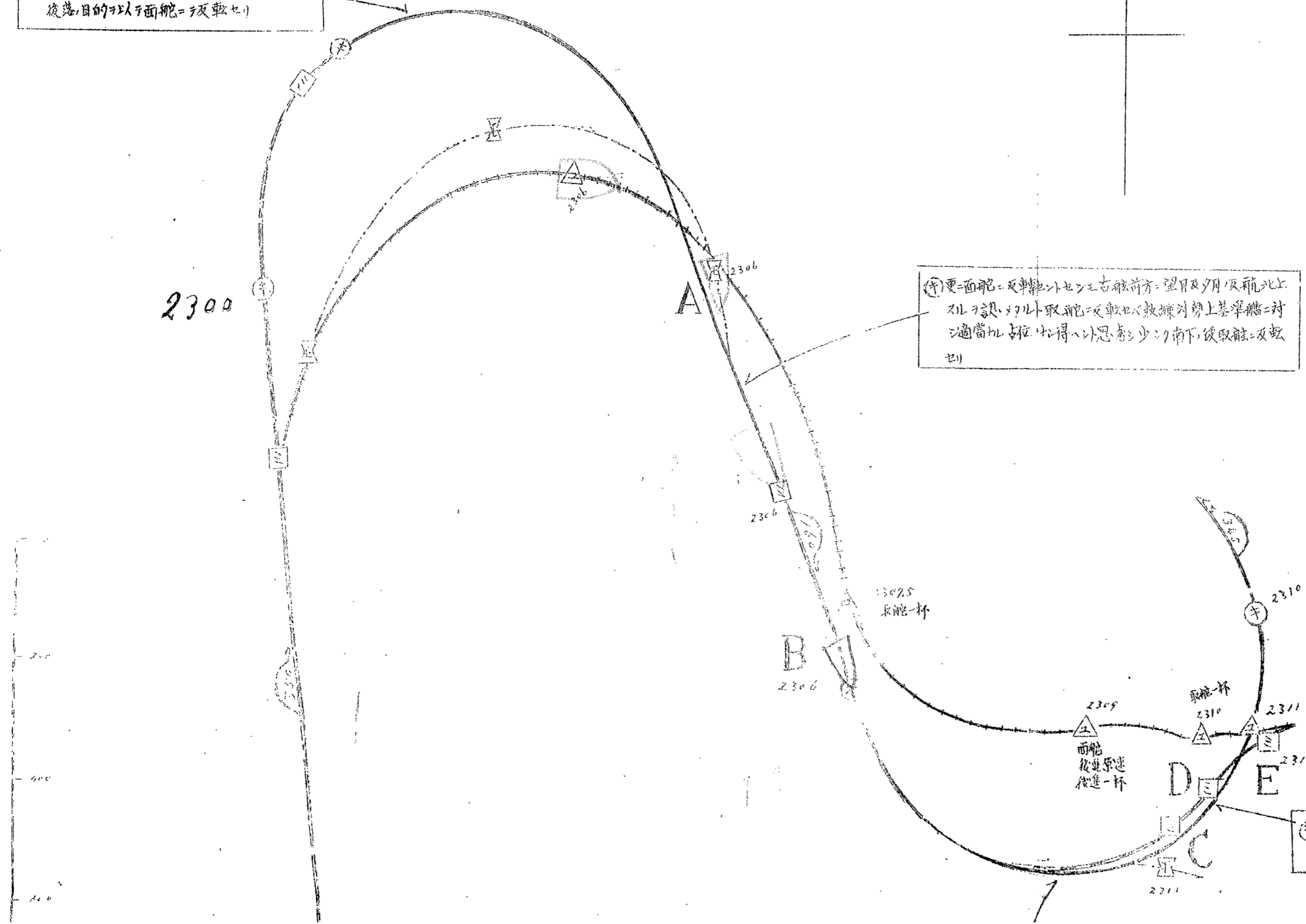
三月夕月觸衝前後ニ於ケル各艦運動圖



(甲) 照射教練對勢上の如く上り過ぎ居ル以テ方位  
後落目的以テ面舵ニテ反転セリ

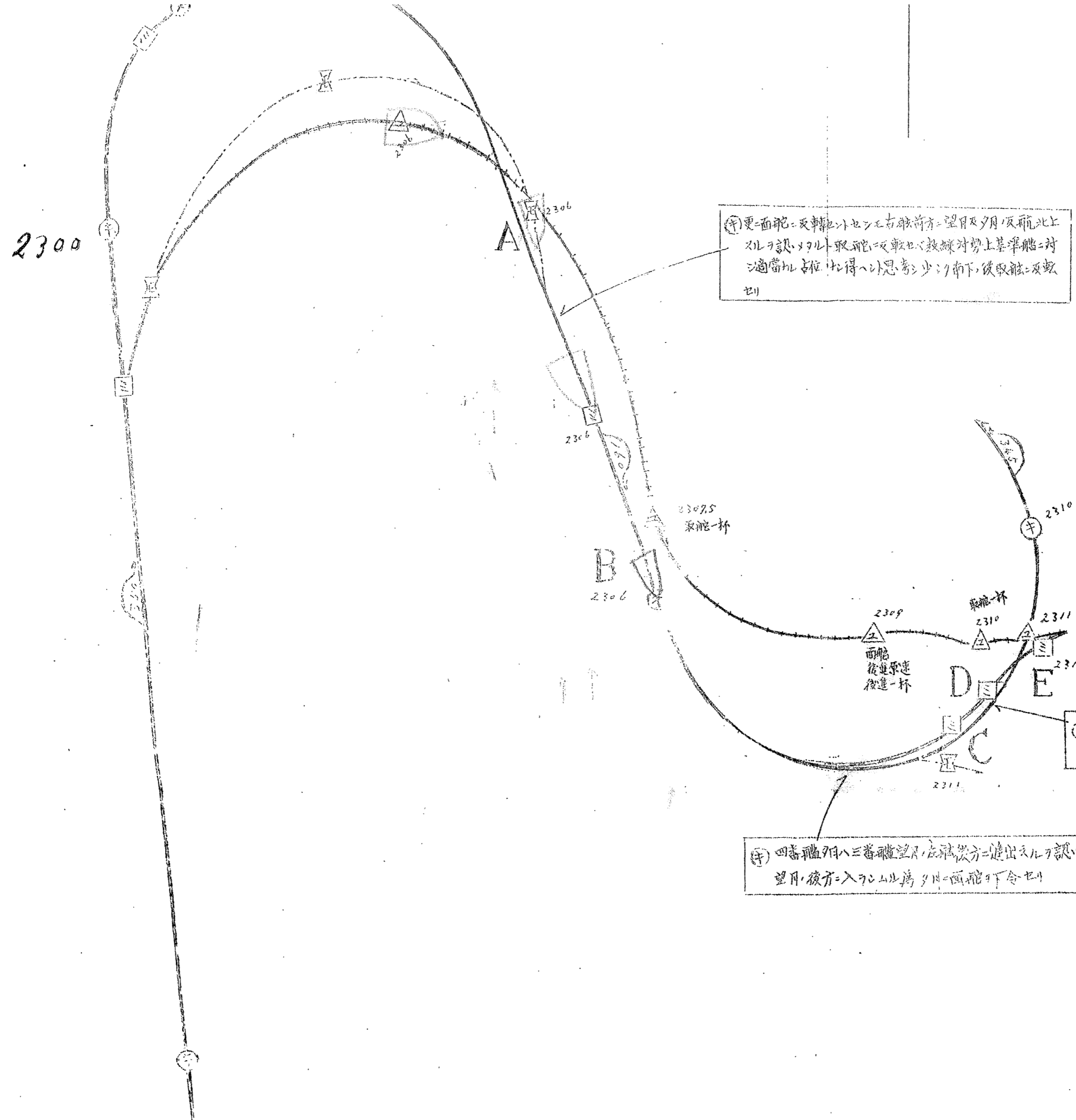
(乙) 更ニ面舵ニテ反轉シテセンニ右舷前方ニ望月及夕月反航北上  
スルヲ認メマツルニ取テ面舵ニテ反轉セテ教練對勢上基準艦ニ對  
シ適當址占位ニ得ハシ思フ少シ南下後取舵ニテ反転  
セリ

(丙) 別各艇中ノ一部ニ突入シ来ルヲ見テ至急停止セ  
シムル必要アリ故ニ夕月ニ右進ヲ下命セリ



夕月觸衝前後ニ於ケル各艦運動圖

夕望三月菊  
 月月日月月  
 ↳示ス



(甲) 更ニ面舵ニ反轉セシメ右舷前方ニ望月及夕月ノ反航北上  
 スルヲ認メタル取崩シ反航セバ敵隊對勢上基準艦ニ對  
 シ適當ナル位置ニ得ヘシ思考シ少シ南下シ後取崩シ反航  
 セリ

(乙) 沖島 Lt (296' - 12.6')

(丙) 明後取崩シ後部ニ突入シ来ルヲ見ニ至息停止セ  
 シムル以要則認メ夕月ニ右進ヲ下令セリ

(丁) 四番艦夕月ハ三番艦望月ノ左舷前方ニ進出スルヲ認メ  
 望月ノ後方ニ入ラシムル爲夕月ニ面舵ヲ下令セリ